

酒東探究科設置にともなう Q&A

県立酒田東高等学校

Q1. 酒東を受検するなら、第1志望探究科・第2志望普通科(A)として志願したほうが合格の可能生が広がりますか？

A これ以外の志願方法は、「第1志望探究科・第2志望なし(B)」と「第1志望普通科・第2志望なし(C)」しかありませんが、前者は80名を選抜するための入試、後者は120名を選抜するための入試にしか該当しません。これらに対し、第1志望探究科・第2志望普通科として志願すれば、200名を選抜するための入試に該当することになり、酒東に入学するための入り口としては、広くなることとなります。

Q2. 探究科が定員割れした時は普通科から回るのですか、また定員はどうなりますか？

A 志望している学科のみで合格者の対象となります。Q1を参照してください。(A)パターンについては、そのどちらかの科で、(B)パターンでは、探究科のみで、(C)パターンでは、普通科のみで合格の可能性があります。仮にどちらかの学科が定員に満たなかったとしても、志望していない学科に回って合格することはできません。

Q3. 探究科のほうが、合格ラインが高くなりますか？

A 併願パターンが、第1志望探究科・第2志望普通科に限定されるため、酒東への入学を前提に考えれば、探究科を第1志望とすることが得策となります。このような背景から、志願者が増えれば、合格ラインは高くなることも予想されます。

Q4. 普通科の合否を判断する際は、普通科専願の方が優先して選抜されますか？

A 普通科の選抜においては、第1志望の受検生と第2志望の受検生は同等として選抜します。

Q5. 倍率はどのように示されますか？

A 探究科、普通科それぞれ第1志望とした受検生の倍率を算出することになります。なお、探究科、普通科ごとに倍率が公表されます。

Q6. 受検番号はどのようになりますか？

A これまで通り、受検番号は中学校毎で連番になります。さらに、探究科や普通科の志願がわからないように通番にすることができます。(中学校でお持ちいただいた順に番号を打ちます)。したがって、普通科の合格発表においては、第1志望として合格したのか、第2志望として合格したのかわからないことになります。当日の入学試験も、受検番号をもとに、受検室が決まります。よって、探究科・普通科それぞれの志願者が同じ受検室で受検する形態になります。

Q7. 国文系や教育系といった、国際系以外を目指す生徒が探究科を志望したら、不利になりませんか？また、現在、理数系や国際系を志望していない場合でも、探究科を志望してもよいですか？

A 国文系や教育系といった大学でも、ほとんどの入試では英語が課せられ、大学入試改革においても今まで以上に、英語の重要性（さまざまな観点での評価の充実等）がさげばれています。また、大学入学後も英語の論文を読んだり、研究成果を英語でまとめたりすることもありますので、探究科で学んで良かったということはあっても、不利ということはありません。卒業後の進路を制限することはありませんので、現在、理数系や国際系を志望していない場合でも、探究科を志望して構いません。

Q8. 探究科を選ぶと逆に選択肢が狭くなる印象がありますが、どうなのですか？

A Q7 に示された通り、選択肢が狭くなるということはありません。大学進学への必要最小限の対応という観点から考えると、探究科も普通科も変わりません。ただ、5教科について、より深く学ぶことができたり、AO・推薦等において、生徒が用意する志願理由書や高校時の活動歴等の作成に対応しやすかったりするということを考慮すれば、探究科の方が、大学への窓口がより広く開かれていると思われれます。

Q9. 探究科に入学したいが、やはり数学Ⅲ（理数数学Ⅱの内容）などがつらい、という生徒が出る可能性を考えると普通科で、と考える方も多いのではないですか？

A 一部の教科・科目を選択しないことで、受験する大学の選択肢が少なくなることが考えられることや、より高度な内容の科目を勉強することで、低学年（年次）に学習したことへの理解が深まることを考慮して、学科を選ぶ必要があります。

Q10. 夏のオープンキャンパス以外、学校説明会はないのですか？

A 各中学校からの要請があれば、人数に関わらず中学校に赴き、学校説明をさせていただきます。中学校1年生や2年生、保護者、教員に対してでも結構ですので、必要があれば、ご連絡ください。

Q11. 2年次の教育課程で、探究科が1単位増えていますが、その内容は何か？

A 「総合的な学習の時間」が1単位増えていますが、それは、長期休業中等での校外学習のことで、探究科独自の行事として、1泊～2泊程度の大学や先進研究機関等での研修を現在検討中です。2年次に限らず、日常の時間割における授業時数は普通科と全く同じなので、放課後は、探究科も普通科も同じように活動できます。

Q12. 2つの学科で、課題研究の取り組み方の違いはありますか？

A 2年次で理数探究科に進んだ場合、課題のテーマが、科学や数学に関することに限定されます。このことを除けば、取り組み方における大きな違いはありません。また、探究科においては、課題研究を促進・支援するための探究科独自の行事（校外学習等）を検討しています。

Q13. 普通科・探究科それぞれの科目の名称の違いで何が違いますか？

A 高等学校においては、学科に関わらず、どの学科でも共通する教科・科目があります。特に探究科では、それらを専門教科・科目名で示していますが、専用の教科書はなく、普通科でも使用する教科書を使って学習します。但し、扱う内容に軽重をつけたり、扱う順番を変えたりして授業を進めていくため、定期考査の問題が一部もしくは全部において違ってくることも考えられます。その一方で、専門教科がない教科もあるので、2つの学科で同じ問題になることがあります。

Q14. 探究科と普通科の違いは何ですか？

A 探究型学習を通して、習得した知識を活用する機会が多いこと（探究科独自の行事があること）と、専門教科における発展的かつ専門的な学習に取り組むことの2点に集約されます。なお、これまで同様、普通科も探究科も全員、「総合的な学習の時間」で課題研究に取り組めます。

Q15. 校内成績順位はどのように算出されますか？

A 探究科での順位と普通科での順位の2つについて、各生徒の平均点(または合計点数)をもとに算出することを検討中です。

Q16. 高校入学時に大きな学力差があった場合、探究科において学びなおしといったことを実施しますか？

A 大きな学力差が生じる可能性のある数学や英語等については、現在も習熟度別学習を行っており、探究科においてもそれが実現できるように検討しています。

Q17. 人前に出て発表すること等が苦手な生徒も探究科に入学して大丈夫ですか？

A 現在も、普通科で課題研究発表会を行っており、全生徒が人前で堂々と発表していますので、探究科で頑張りたいという意志があれば大丈夫です。「総合的な学習の時間」を使って、計画的に発表の仕方のスキルが学べるような教材を作成したり、「校外学習」を通して、課題研究を促進・支援するような企画を検討したりしています。

Q18. 2年次に進級した時、学科を変えたりすることはできますか？

A 合格時の学科は3年間変えることはできません。また、国際探究科と理数探究科の選択は1年次の秋頃決定し、県教育委員会に報告しなければいけないため、その後の変更はできません。普通科における、文系と理系の選択についても、1年次の秋頃決定し、その後の変更はできません。

Q19. 探究科を卒業後、どのような進路先を想定していますか？

A 先日の「大学入学共通テスト試行調査」の問題を見てもわかるとおり、これからの大学入試は、知識を問うだけでなく、知識を活用する力、情報を整理する力、思考力・判断力・表現力等、様々な力を問う出題がなされると予想されます。普通科でも、もちろん、これらの力の養成に対応していきますが、探究科では、より深く学んでいくために教育課程を工夫し、校外での研修等も予定しています。探究科を卒業後は、こうした学習成果を踏まえ、よりハイレベルな学問を追究できる大学への進学をめざしていきます。

Q20. 探究科は、AO・推薦等に有利になりますか？

A 現在の大学入試改革（案）においては、生徒が用意する志願理由書や高校時の活動歴等について、今までよりも内容が深く説得力のあるものが求められる予定です。これらの書類作成への対応はもちろん、AO・推薦等での面接や小論文等についても、思考力・判断力・表現力や、プレゼンテーション力が求められることになるので、探究科での学びが、よりAO・推薦等に有効に活用されます。

Q21. 探究科より普通科に在籍していたほうが、評定が高くなると思われるので有利ではないですか？

A どのような入試形態でも評定が記載されている調査書を大学に提出することになりますが、評定だけで合否が決まることはほとんどありません。AO・推薦等といった選抜方法では、評定は出願要件として用いられることがありますが、これからは、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、大学入学共通テスト（現在の大学入試センター試験の後継）等のうち、いずれかの活用が必須化されます。したがって、学習活動を通して、思考力・判断力・表現力をより高めることが重要な要素になります。（AO・推薦等も、一定の基準を満たした受験生による一般入試と考えられます。）一方、一般入試でも、論理的思考力・判断力・表現力を問う記述式問題を全ての国立大学受験生に課すことを目標に検討されています。どのような入試形態にせよ、評定の高い低いだけでなく、大学毎に共通に課せられる入試問題に対応できる高い学力をつけないと、大学入試を突破することは難しいと考えられます。

Q22. 卒業証書の記載はどうなるのですか？

A 現在、県教育委員会で検討しています。